

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立田野浦小学校	校長氏名	杉原 禎也	生徒指導主事氏名	梶本 明伸
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『レベル5のあいさつ』

取組のねらい『キーワード あいさつ三原一』

具体的なあいさつのしかたについて示し、評価することで、自分からきちんとしたあいさつができる児童を育成する。

取組の具体的内容『キーワード みんなで取り組む』

- ①あいさつのモデルを「レベル5のあいさつ」として具体的に児童に示し、教室や校内にも掲示する。
- ②1学期末の児童の姿をイメージし、PDCA サイクルにもとづいて目標を立て、計画、評価、取組の見直しを行う。
- ③毎月、全校児童の中から教員の投票で「あいさつ名人」を選出し、表彰する。
 - ・「あいさつ名人」になった児童は、認定リボンを名札に付け、校内にも名前と顔写真を掲示する。
- ④「あいさつ名人」になった児童の有志が朝、正門であいさつ運動を行う。

レベル5のあいさつで めざせ 三原一

レベル
アップ

レベル	あいさつの仕方
5	立ちどまって おじぎして あいての目を見て 大きな声で あいてより先に
4	おじぎして あいての目を見て 大きな声で あいてより先に
3	あいての目を見て 大きな声で あいてより先に
2	大きな声で あいてより先に
1	あいてより先に

平成 27 年 4 月 28 日

「レベル5のあいさつ」のPDCAサイクル

1 ゴールイメージ（7月の児童の姿）

- レベル5のあいさつができる児童の割合

全校児童 80 %以上	1年生 90 %以上	2年生 90 %以上
	3年生 80 %以上	4年生 80 %以上
	5年生 70 %以上	6年生 70 %以上

2 長期・短期のC→A

段階	長期のC→A (3カ月)	短期のC→A (2週間)	C (アンケート調査)	A (具体的手立て)
1	4月の取組みのC→A	4月30日(木)	4月の取組みを振り返り目標値との差を確認する。	目標値との差を埋めるための具体的な手立てを考え実践する。
2	4月末～5月運動会終了後	5月22日(金)	前段階との差を分析する。	
3	5月運動会終了後～7月始	6月5日(金) 6月19日(金) 7月3日(金)		

3 C

- ① 全校児童にアンケート調査を実施
- ② 各学級・学年で結果を集計し、生徒指導主事に結果を報告
- ③ 生徒指導主事を中心に「豊かな心部」で結果を分析

4 A

- ① 生徒指導主事を中心に「豊かな心部」で目標値との差を埋めるための具体的な手立てを考え、取組の計画を立案する。
- ② 生徒指導主事からの指示を受け、各学級・学年で目標達成に向けて具体的な取組みを進める。

取組の課題・創意工夫『キーワード みんなで取り組む』

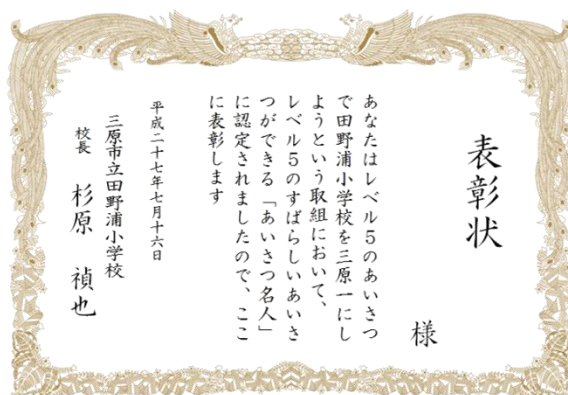
- 「レベル5のあいさつ」であいさつの具体的なモデルを示すことで、児童はわかりやすく、教員は指導しやすい。
- 「あいさつ名人」の取組を毎月行うことで定期的に児童に意欲づけと意識づけができる。
- 教員全員が毎月「あいさつ名人」の投票することで、教職員の意識づけにもなる。
- 学年、学級によって取組に温度差がある。
- 高学年になるほど意欲的にあいさつをしようとする児童が少なくなっている。

取組の成果（効果）『キーワード 評価とモデル化』

- 「あいさつ名人」を目指してあいさつを頑張っている児童が増えている（特に低学年）。
- あいさつについて、アンケートで肯定的な評価をしている児童が84%である。
- 保護者や地域の民生委員さん、来校者にあいさつがよくなったと言われることが増えている。



あいさつ名人の掲示



あいさつ名人の表彰状



あいさつ名人認定リボン

今後の展開『キーワード 意欲を持たせる』

- ・取組が次第にマンネリ化してくるので、「あいさつ名人」が正門であいさつ運動をする以外にも、「あいさつ名人」がよいモデルになり活躍するような場を考えていきたい。
- ・保護者や地域の方など外部の方からの肯定的な意見を積極的に児童に返していきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 一点突破の取組』

- ・足りない部分や改善していきたい部分は多々あるが、ポイントをしばって一点突破の取組を進めていく。
- ・児童も教員もみんなで目標に向けて取り組んでいけるようにする。